

2015年9月  
公益財団法人 武田科学振興財団

武田科学振興財団、「2015年度 武田医学賞」受賞者を発表  
～11月12日（木）東京・ホテルオークラにて贈呈式を開催～

公益財団法人 武田科学振興財団（理事長 横山巖：所在地 大阪市中区）では、このほど「2015年度武田医学賞」を下記の2氏に贈呈することを決定しました。

受賞者には、賞状、賞牌・盾のほか一件につき1,500万円の副賞が贈呈されます。

なお、贈呈式は、11月12日（木）午後6時よりホテルオークラ（東京）において行います。

「武田医学賞」は、医学界で顕著な業績を挙げ、医学ならびに医療に優れた貢献を果たされた学者・研究者に贈呈されるもので、1954年、武田薬品工業株式会社の創業170周年記念事業の一つとして設けられ、1963年 当財団の設立と同時に継承され今日に至っています。

今年で59回目を迎える「武田医学賞」の受賞者総数は、本年度を含めて122名となります。

記

稲葉 カヨ 博士（いなば かよ）  
京都大学 理事 副学長（65歳）  
受賞テーマ：「免疫応答の始動と制御における樹状細胞機能の解析」

渡邊 嘉典 博士（わたなべ よしのり）  
東京大学 教授（54歳）  
受賞テーマ：「染色体分配の制御機構の研究」

以上



稲葉 カヨ 博士



渡邊 嘉典 博士

## 稲葉 カヨ 博士 略歴

### 学歴・職歴

1973年3月	奈良女子大学理学部生物学科植物学専攻 卒業
1975年3月	京都大学・理学研究科修士課程 修了
1978年3月	京都大学・理学研究科博士課程 修了 (理学博士)
1978年4月	京都大学理学部 研修員
1978年6月	京都大学理学部 (動物学教室) 助手
この1982年10月より1984年12月	アメリカ合衆国 (ニューヨーク市) ロックフェラー大学に留学
1984年11-12月	同上 休職
1985年1月	京都大学理学部 (動物学教室) 助手 復職
1992年10月	京都大学理学部 助教授
1995年4月	京都大学大学院理学研究科 助教授
1999年4月～	京都大学大学院生命科学研究科 教授
2003年4月～	同上 研究科長
2005年3月	
2007年10月～	女性研究者支援センター・センター長
2013年3月	
2008年11月～	京都大学理事補 (総務担当)
2012年3月	
2013年4月～	京都大学男女共同参画推進センター・センター長
2013年8月～	京都大学 副学長 (男女共同参画担当)
2014年9月	
2014年10月～	京都大学 理事・副学長 (男女共同参画・国際・広報担当)
1982年～1986年	ロックフェラー大学客員助教授 (Visiting Assistant Professor)
1986年～1999年	同上 客員准教授 (Visiting Associate Professor)
1999年～2011年	同上 客員教授 (Visiting Professor)
2011年～	同上 連携教員 (Adjunct Faculty)

### 賞罰

2010年2月	Outstanding Merit Award of International Immunology
2014年3月	ロレアル-ユネスコ女性科学賞
2014年7月	京都大学孜孜賞
2014年11月	京都府あけぼの賞
2014年12月	日本免疫学会女性免疫研究者賞

## 稲葉 カヨ博士 研究業績

受賞テーマ：免疫応答の始動と制御における樹状細胞機能の解析

細胞培養系の確立後、抗体産生応答の誘導においてはヘルパーとしての T 細胞と抗体を産生する B 細胞以外に、抗原提示細胞として脾臓に存在する付着性細胞が必要である事が示されていた。Steinman らは、脾付着性細胞にはマクロファージに加えて新たな細胞として樹状細胞が存在することを見出しており、その樹状細胞が異系 T 細胞に対する強力な刺激活性を有することを明らかにしていた。しかし、その数が少なく、しかも抗体産生応答の検討をしていなかったことから、多くの研究者は、抗原提示細胞は体内に広く分布するマクロファージだと信じていた。

稲葉カヨ博士は、マクロファージではなく樹状細胞のみが抗原提示細胞として抗原特異的ナイーブ T 細胞を活性化し、その後続く B 細胞の抗体産生応答の誘導やキラーT細胞の活性化など、獲得免疫応答を誘導する機能をもつことを明らかにした。また、その機構として、樹状細胞の末梢組織から所属リンパ節への移動、抗原の捕捉と消化分解能、MHC クラス I, II 分子や補助刺激分子の合成能などが、細胞の成熟・活性化により制御されていることを解明した。さらに樹状細胞は異なるサイトカイン産生 (IL-12, IL-6 など) を通じて誘導する免疫応答の強度と質 (Th1, Th2 等) にも大きく関わることも示した。一方、定常状態における末梢組織に分布する樹状細胞は未熟であり、そのため末梢免疫寛容の誘導と維持に作用することも明らかにした。樹状細胞による免疫応答の誘導については改訂された高等学校教科書「生物基礎」にも取り上げられており、基本的な生物事象としての収容性が確立されたものと考えられる。

## 渡邊 嘉典 博士 略歴

### 学歴・職歴

1984年3月 東京大学理学部生物化学科卒業  
1989年3月 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻博士課程修了  
博士（理学）取得  
1989年4月 日本学術振興会特別研究員（東京大学医科学研究所）  
1991年6月 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻 助手  
1996年4月 英国王立がん研究所（ICRF）客員研究員  
1999年10月 科学技術振興事業団「さきがけ研究21」兼任  
1999年11月 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻 助教授  
2002年10月 科学技術振興機構「SORST」兼任  
2004年5月 東京大学分子細胞生物学研究所染色体動態研究分野 教授

### 賞罰

2006年 日本学術振興会賞（日本学術振興会）  
2006年 日本学士院学術奨励賞（日本学士院）  
2008年 木原記念財団学術賞（木原記念横浜生命科学振興財団）  
2010年 井上学術賞（井上化学振興財団）  
2013年 上原賞（上原記念生命科学財団）  
2014年 EMBO associate member (EMBO)

## 渡邊 嘉典 博士の研究業績

受賞テーマ：染色体分配の制御機構の研究

染色体は生命の遺伝物質であるゲノム DNA を包含する構造体であり、生命体の複製にともない正確に伝承されることが必須である。渡邊嘉典博士は、細胞分裂における染色体分配の方向を決定する分子機構の解明に一貫して取り組み、目覚ましい成果を挙げてきた。複製したゲノムを反対方向へ分配する（均等分裂）か同じ方向へ運ぶ（還元分裂）かを決める機構について、染色体接着因子コヒーシン分子群が、決定的な働きをしていることを見出した。さらに、還元分裂のときに動原体を同じ向きに方向づけさせる新規動原体タンパク質 Meikin を発見し、「コヒーシン接着による動原体方向性制御モデル」を提唱し証明した。また、コヒーシンを守る因子として、すべての生物に保存されたシュゴシン (Shugoshin) を発見した。また、シュゴシンが、生殖細胞の染色体分配の必須因子として機能するのみならず、体細胞の染色体分配にも重要な役割を果たしていることを解明した。特に、がん由来の染色体不安定性を示す細胞株の多くで、シュゴシンに異変があることを見だし、その異変を引き起こす分子機構も明らかにした。これにより、制がん剤の開発に新たな方向性を与えた。

〈FAQ〉

Q。武田医学賞は国際賞ですか？

A。武田医学賞は日本人研究者を対象に贈呈しております。国際賞ではありません。

Q。武田医学賞の選考方法は？

A。財団理事、評議員、名誉顧問、武田医学賞選考委員、武田医学賞受賞者、日本学士院会員（第7分科）、日本学士院賞受賞者（1999年以降医学関連）の90名からの推薦をもとに、9名からなる選考委員会で公正に決定いたします。今回は12名からの選考でした。

選考委員長は岸本 忠三 先生（元 大阪大学 総長）をお願いしています。その他8名の選考委員については公表を控えさせていただいております。

Q。武田医学賞の起源について教えてください。

A。

1954年	武田薬品工業株式会社の創業 170 周年記念事業の一つとして和敬翁（五代武田長兵衛氏）の発意を受け、六代武田長兵衛氏により武田医学賞の褒賞事業が始まる。
1963年	武田科学振興財団設立 武田医学賞を武田薬品工業株式会社から当財団に移管

Q。武田科学振興財団の財源は？

A。1963年財団設立以来の武田薬品工業株式会社の寄附金、および1980年、武田彰郎氏（当時武田薬品工業株式会社副社長）の遺志により寄贈を受けた同社株式の配当金が基盤になっています。

当財団は、同社株式の2.27%を保有する第5位の株主です(2015年3月末現在)。詳細につきましては武田科学振興財団ホームページをご覧ください。

(<http://www.takeda-sci.or.jp/>)

以上

（本件に関する照会先）

公益財団法人 武田科学振興財団 TEL:06-6233-6103